HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アイヌ民族の参画・主導によるヘリテージ・マネジメントをめざして
Author(s)	岡田, 真弓
Citation	アイヌの伝統を基層にした多文化な景観 : 北海道平取地域の文化的景観に関する論説集, 8-9
Issue Date	2024-03-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92882
Type	other
File Information	ronshu_biratori (6).pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

アイヌ民族の参画・主導による
ヘリテージ・マネジメントをめざして

岡田真弓
北海道大学国際広報メディア・観光学院 准教授

世界遺産リストにおける不均衡の是正や遺産概念の拡大に関する議論が活発化するなか、1992 年に世界遺産の新しい類型として加わった文化的景観は、それまでは評価されにくかった非西欧型文化や民族固有の景観認知などに価値を見出したという点で、遺産概念の多様化に一石を投じた。また先住民族のヘリテージに焦点をしぼれば、文化的景観は先住民族の世界観に基づく自然と人間とのあらゆる関わり―地名、伝承、生業、芸術、信仰、生態系の保全にかかる知識など―を OUV（Outstanding Universal Value：顕著な普遍的価値）として考慮することを可能にしたといえる。最近の登録としては、カナダの４つの先住民コミュニティの伝統的居住地に広がる河川、湖沼、湿地、そして森林とそれらを維持し続けた先住民の知識･技術を含む文化伝統が評価された「ピマチオウィン･アキ」（2018 年登録）や、オーストラリアの先住民族の伝統的居住地にあり、地元のアボリジニ（Gunditjmara）の世界的に大規模かつ最古の養殖システムを含む構成要素が評価された「ブジュ・ビムの文化的景観」（2019 年登録）がある。いずれもこれまでの西洋的価値観に軸足を置く普遍的価値体系から地域･民族固有の価値体系を重視し、OUV の評価につなげた登録といえる。また、構成資産やそれらの所在地域とかかわりのある先住民族が世界遺産登録プロセスや意思決定に参画したり、生態系や自然環境の保全に先住民族の伝統的知識が積極的に取り入れられたりするなど、先住民族の参画・主導によるヘリテージ・マネジメントを実現化するための取組がなされている。

「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」は、日本の文化財評価にいくつもの変革の兆しをもたらしてきた。ここでは、上述したユネスコ世界遺産における文化的景観と先住民族参画・主導によるヘリテージ・マネジメントの昨今の動向をふまえ、とくにアイヌの認識や知識を踏まえた価値づけと選定エリアで行われる文化実践や生業活動が持つ重要性について触れたい。沙流川流域の文化的景観は、研究者のみならず、平取町出身のアイヌ・萱野茂氏をはじめとする多くの個人、そして平取アイヌ文化保存会といった団体の長年にわたる努力、さらに博物館やアイヌ文化保全対策室の綿密な調査・研究によって収集、保存、継承されてきた有形・無形のヘリテージが多数含まれている。とくに口承やチノミシㇼといったアイヌが周辺環境との相互関係の中でつくりあげてきた精神文化を象徴する要素を多く含んでおり、それがこの文化的景観の強い独自性となっている。また第四次選定では、景観単位として泉靖一が記録した沙流川流域のイウォロ概念を採用し、今日の地域空間のなかでアイヌの認識や知識を盛り込んだ文化的景観の説明を試みている。和民族（和人）の価値体系の中でアイヌのヘリテージを位置づけるのではなく、ヘリテージへのアプローチそのものもアイヌの認識や知識に軸足を置こうとする姿勢は、世界遺産が目指す先住民族とヘリテージのあり方に通じる。くわえて選定エリアでは、アイヌ文化伝承および振興にかかるさまざまなプロジェクトが行われている。そのひとつ、「21 世紀・ア

イヌ文化伝承の森事業」では国有林エリアを中心に森づくりや伝統的狩猟文化の実践が行われ、森林においてアイヌが安心して文化伝承・実践をおこなうこと、そしてそれらの実践が生業として定着することが目指されている。本事業は、森づくり計画や資源の保全管理・活用において平取町アイヌ文化振興公社がハブとなり、地域のアイヌと森林にかかわる様々なステークホルダーが協働しており、今日の森林とアイヌとの結びつきを再生および強化するものである。それはすなわち、これまで以上にアイヌが文化的景観のマネジメントに関わる機会が増えることとなり、ゆくゆくはアイヌ民族が参画・主導していくヘリテージ・マネジメントの展開につながることが期待される。



写真１ アイヌの認識や知識に軸足を置いたヘリテージの価値を伝える努力が継続されている（2022 年文化的景観現地見学会）



写真２ 21 世紀・アイヌ文化伝承の森事業では森づくり等の活動成果をガイドツアーの中で従事者自ら来訪者に伝えている